

五稜支会、近況報告



五稜支会長
(渡島教育局)
嶋田 聡

今春、藤井指導主幹をはじめ、三名の会員が異動し、代わって、函館市立中央小学校から鈴木指導主幹、檜山教育局義務教育指導班から大山指導主事が着任し、本年度、五稜支会は、六名体制で活動しております。

さて、管内の学校においては、子どもや地域の実態に応じた教育実践が進められており、私どもは、子どもたちのために、先生方のために、学校のために、どのような仕事ができるかを考え、日々、業務に取り組んでいくところであります。

鈴木指導主幹は、管内の教育委員会をはじめ、各小学校、中学校をほぼ毎日訪問し、大変忙しい毎日をおくっています。

永澤主査は、いつもにこやかにたくさんの業務を進めるとともに、義務教育指導班の指導主事の健康面を含めて、温かな声かけをしております。

小笠原指導主事は、計画的に業務を推進し、実践論文や学校訪問など、学校をバックアップしようと、全力で尽くしております。

大山指導主事は、渡島管内の学方向上を目指し、各種研修事業の企画運営に邁進しております。

社教班の加藤主査は、保護者を対象として子どもの正しい生活リズムの確立に向けて、力を尽くしております。

そして、私、嶋田は、管内の小・中学校、高等学校の児童生徒の学力向上とともに、体力・運動能力の向上の取組の推進について熱く語っております。

このように五稜支会は、全員で六名の小さな組織ですが、一人一人の見方や考え方を互いに感じながら、切磋琢磨し合い、日々の業務に努めております。

各種事業や学校訪問等で、皆様のお力をお借りいたしますがよろしくお願ひします。

「燦たる北斗」に息づく 拓北の熱き想い



北斗支会
(秋野小学校)
橋本 公伸

夏の天候不順で心配された稲作も、収穫してみれば何と六十kgの大豊作。

職員室

今年もわが秋野小水田は、地域・保護者の温かいご支援に支えられ、順調に収穫量を伸ばしています。これも前任で今年退職された藤澤建二校長、さらにその前の現浜分小学校大澤照雄校長といった夕陽の代々の諸先輩の努力の結晶であることに感謝するばかりです。もちろんこれらの活動を支える本校の職員十名中七名が夕陽会員であることも心強いかぎりです。

このように、北斗市は住宅街や商店街と自然がほどよく調和した住みよい街として発展を続けています。市内にある小・中学校合わせて十六校は、それぞ

れの中学校校区でまとまり、地域支援事業も広がりを見せています。もちろん子どもたちは、このすばらしい環境の中で生き生きと活動し、農業・漁業体験をはじめ、山や川・沼での遊びや生活体験を活かした特色ある教育活動が展開されています。その成果が課外活動等にも波及し陸上や吹奏楽等、全国レベルの活躍をして良い励みや刺激となつていきます。

これらの活動には単独でできる大規模校の他、小規模校の子どもにも呼びかけて一緒にしている少年団活動も多く、本校の子どもたちも柔道やバレーボール、サッカー、水泳等、近隣の学校や市の施設で活動しています。活動を支える指導者の中には夕陽OBの姿も見られ、近くでは、元大野小学校長の五十嵐敏隆先生が現役時代に引き続き大野地区のサッカー少年団の指導に携わっております。

それぞれの地域でそこに住むOBが地域住民の一人として趣味や特技を活かしてご支援下さることは、実に心強く、自分も目標に日々努力しております。

支会だより

人を残す



知内支会長
(知内中学校)

竹 鼻 洋 文

我が町の「町章」は、横長の楕円の中央にSの文字が配されるシンプルなものです。緑色の楕円は町の大半を占める森林と大地を、そして楕円中央のS字はもちろん町名の頭文字ですが、千軒岳を源として海峡に注ぐ清例な水の流れ(知内川)を表しています。

我が町の町づくりのキーワードは「笑顔と躍動」。人を中心に据えた町づくりです。人同士が触れあうこと、互いに力を合わせることを、人を育てることを何より大切にしています。

今こそ道内一の品質と生産量を誇る特産のニラは約四十年程前に稲作減反の対策として試験栽培されたのが始まりで、以後、生産者の方々の粘り強い研究努力と試行錯誤の上に今日があると思えます。また、子どもから大人まで町を祭り一色にする九月の「知内ねぶた」も、遡

れば町の基幹産業が不振の時期に、町を元気にと若者が考案創作したもの。この町の底力、元気の源は紛れもなくマンパワーにあると確信します。まさに、人こそ最大の資源です。

我が町では、幼稚園から高校までの町立学校園が相互に連携し連続性を重視した教育を地域の方々とともに進めています。

その活動を担う本支会会員は、田中健一教育長様はじめ町及び町教委会員二名、幼稚園一名、知内小七名、湯ノ里小五名、涌元小五名、知内中七名、知内高四名と、ますますお元気な終身会員四名の計三十五名。

六月には、本部から橋田恭一会長様、支部から類家直人副支部長様をお迎えし、年次総会と懇親会を開催し、大いに語り合い同窓の絆を一層深めました。

「金を残すは下、仕事を残すは中、人を残すは上」と言います。私たちの仕事は子どもたちの笑顔を支えること、未来の幸せのお手伝いをする事、そして、次代へと人を残すこと。一同、夕陽の魂と使命を忘れず力を合わせて頑張ります。

支会だより

創造し行動する森支会



森支会長
(森小学校)

大 森 武 治

秀峰駒ヶ岳は皆様ご存知のように、見る方向や角度によりその姿を大きく変化させます。森町にある十の小中学校からその雄姿を十分堪能することができます。南西部に位置する赤井川小学校からは馬の背のなだらかな曲線を見ることができま

す。西部の駒ヶ岳小学校からは駒ヶ岳の雄々しい姿を間近に感じることが出来ます。北部から見る駒ヶ岳はツインタワーのような端正な姿を内浦湾に写しています。さわら小学校・砂原中学校からは砂原岳の荒々しいま

での迫力を感じることが出来ます。それぞれの学校では、自分の学校から見える駒ヶ岳が一番美しいと思っているようです。さて今年の森支会は、現職会員六十九名、OB会員四十三名という構成となっております。今年度の総会・懇親会を五月二十二日に『プラザ武蔵』で行い

ました。懇親会には、来賓として本部より土谷幹事長様、渡島支部より竹内支部長様にご臨席を賜りました。さらに、森町教育委員会磯邊教育長様にもご出席いただき、会に華を添えていただきました。私は町内異動だったこともあり、森支会長を二度務めるという得難い経験をさせていただいております。前回の経験と反省を生かし、今年度の総会・懇親会は例年より早く実施し、新会員歓迎会を兼ねることになりました。その成果は、参加者の増加という好ましい結果となって表れました。新会員には心ばかりの記念品をお渡しすることもできました。会

は松浦須枝二先輩(昭和二十五年卒)半田哲先輩(昭和三十三年卒)の近況報告などもあり、大いに盛り上がりました。ご来賓の方々からも高い評価をいただき、絆を深めるという活動計画を十分に達成することができたと感じております。二次会でも森町活性化に寄与することができました。これからも創造し行動する森支会を標榜し、活動を進めていく決意です。

新会員だより

同窓の皆様に助けられ



五稜支会
(渡島教育局)
鈴木 祐司

十七年間、夕陽会渡島支部で教諭・教頭・校長として過ごさせていただきました。今回、四年ぶりの渡島支部復帰です。

仕事柄、管内各学校で子どものために尽力されている同窓の皆様とお会いする機会を得、私自身勉強になる毎日です。この九ヶ月間、学校と教育行政のパイプ役を担って仕事をしてきたつもりですが、十分にできていたかどうか、ご迷惑はなかったか自問自答しております。

うれしいのは、どこで会っても先輩・後輩の皆様が声をかけてくださり、気にかけてくれることです。励ましと期待に応えることができるよう、努力して参りたいと思います。「丁寧に人と人を繋ぐ」「学校と市町教育委員会・渡島教育局とを結ぶ」を自分の使命とし、頑張る所存です。今後とも、ご指導よろしく願います。

たくさんの先輩に お世話になっていきます



五稜支会
(渡島教育局)
大山 真由美

四年ぶりに渡島に戻りました。が、勤務していた当時、お世話になった先生が多く、大変心強く感じていきます。

檜山局で勤務していた時にも、同窓の先輩に大変お世話になり、支えていただきました。

教員の時には、あまりにも身近で気付かなかった同窓のありがたさを実感しました。

これまで、教えていただいたこと、励ましていただいたことを、渡島管内の小・中学校の教育活動の充実に向けて、恩返しができるようにしていきたいと考えています。

これからもきつと、助けていただくことの連続になるような気がしますが甘えるだけではなく、精一杯頑張りに役に立てる仕事ができるよう努めて参りたいと思います。今後とも、どうぞ、よろしく願います。

新たな場で



松前支会
(渡島教育局松前町派遣)
南 俊隆

十五年間の教員生活を経て社会教育主事となり、松前町に派遣されてから、早くも半年以上が過ぎました。

社会教育という新たな場に足を踏み入れ、未だ自分の未熟さを痛感する毎が続いていますが、大学時代を過ごした渡島で仕事ができるということ、また、今までと違う視点で物を見ることのできる新鮮さ、地域の人のふれ合いの中の新しい発見なども多く、大変さの中にもやりがいを感じています。

また、研修会などで同窓の皆様にお会いする度に、温かい励ましのお言葉を頂けることを本当にありがたく感じております。

これからも皆様にお世話になる日が続くことと思いますが、いつかはそのお世話に報いることができる様、一日一日を頑張っていきたいと思っておりますので、宜しく願います。

恵まれた環境で



北斗支会
(上磯中学校)
小澤 祐 希

四月に北斗市立上磯中学校に赴任してから、早くも半年あまりが過ぎました。

この半年間は試行錯誤の連続で、教師という職業の難しさを痛感する毎日です。生徒とのかわり合いや授業の組み立て方、進め方などで、上手くいかず悩んだり、落ち込んだりすることもありますが、その度に周囲の先生方から助けていただいています。励ましの言葉をかけていただいたり、相談に乗っていただいたり、経験豊かな先生方のお話には、教師として大切なポイントが数多くあります。

「学ぶ」という言葉の本来の意味がまねることであるように私も先生方の姿から学んだことを実践し、目の前にいる明るく元気な生徒たちの成長に負けたくないように、精一杯努力していきようと思います。どうぞご指導よろしくお願い致します。

再 会



北斗支会
(大野小学校)
佐藤 章

初任から数えて十余年を胆振で過ごしてきました。今年度から大野小に異動になったわけですが、これまでは久しく函館近辺に立ち寄ることもなかったのですが、四月当初は新しい道路や建物などを見る度に、学生時代と比較してしまいました。時代の流れを感じながら、驚きと共に何か寂しい気持ちになったのを記憶しています。

そんな中、懐かしい面々に再会する機会がありました。同じ研究室や部活に所属していた先輩方、そして友人たちです。「久しぶり!」「生きてたか?」と言葉をかけられ、人と人のつながりは、金銭には替えられない尊い財産であることを改めて実感しました。教育現場にも同じことが言えます。子どもたちや各家庭との絆を深められるように今後も努力していきたいと思えます。

道南再び



松前支会
(小島小学校)
遠藤 みどり

私は、平成七月三月に函館校を卒業し、それから十四年間で道東で教壇に立ち、たくさんの子供たちと共に教師として成長させてもらいました。この度、十五年目にしてとうとう道南渡島に異動してまいりました。春には染井吉野が咲き、竹林があり、夏には海水浴ができる道南。函館山、五稜郭、歴史的建造物が建ち並ぶ西部地区、ゴライアスクレインは無くなってしまっただけ、一度渡島の地を離れただけに、渡島、函館の魅力を再確認できたと感じます。

自分たちが当たり前と思っていること、大切なことはその中にある。この環境も学校も友人も、実は出会えたことは奇跡的なことと感じます。この出会いを大切にしながら、時代の変化に流されず自分を持って一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。

栄養教諭になって



福島支会
(福島小学校)
安部 あいか

この度、栄養教諭として福島町立福島小学校に配属になってから約半年以上が経ちました。学校の流れに慣れることで一杯の毎日ではありますが、周囲の先生方や子どもたちの笑顔に支えられて、日々新しい発見や学べべき場面が多く、充実した毎日を送っております。

幼少期より憧れでありました教職を一度は諦めたものの、このような形で関わることでできたことを大変嬉しく思うと同時に、食の大切さや食文化等、食を通じて様々な分野につながりがあることを子どもたちに興味をもってもらえたらと指導の方法等を模索しております。未熟な身ではありませんが、自分を高め、学校給食と食育の両面から子どもたちの心と体の健康のために全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願致します。

教育の原点に会って



七飯支会（大沼中学校
鈴蘭谷分校）
岡崎 光男

「先生、僕たちに中学校の勉強は無理ですよ」

四月、そんな言葉から三年生の授業が始まりました。

簡単な計算でさえ、途中で投げ出してしまう者も少なくありませんでした。

しかし、一つ一つ解き方が分かり、問題が解けるようになる、自習用のプリントを欲しいが生徒が増えました。「スポンジが水を吸収するように」と言いますが、まさにこのことだと感じました。

あれだけ、「数学が分からない」と言っていた生徒たちもあつという間に連立方程式まで解けるようになり、現在は中学三年生の教科書を進めています。

どの生徒も勉強ができるようになりたいと思っています。「教育の原点」に出会えたような気がしました。

充実した日々



八雲支会
（雲石小学校）
炬口 毅 充

大学を卒業し、四月に八雲町立雲石小学校に赴任してからも早くも半年以上が過ぎました。

この半年間を振り返ると、仕事をする上でわからない事がたくさんあり、自分の不甲斐なさを痛感するときもありましたが、先輩の先生方の助けを受け、充実した毎日を送ることができています。

子どもたちはとても活発で、授業中や休み時間に遊ぶときなどは、こちらも全力です。へとへとになりながらも、子ども達との関わりの中で、日々の成長を感じる事ができ、教師として働くことの喜びと、責任の重大さを感じています。

これからも、子どもたちの学校生活が充実したものとなるように、私自身、先輩の先生方から学び、成長していきたいと思っています。どうぞご指導のほどよろしく願います。

八雲での新たな一歩



八雲支会
（八雲小学校）
長澤 史 子

北海道の最東端、根室市で五年間勤務し、今年の四月から八雲町立八雲小学校に赴任して半年がたちました。八雲は根室に比べたとでも暖かく、私にとってはずいぶんやさしい所です。また、初めての異動で不安と緊張でいっぱいでしたが、夕陽会の先生方がとても多く、すぐに職場にもなじむことができました。今まで同窓ということ意識したことがなかったのですが、今回の異動をきっかけに同窓の良さを改めて実感しました。

同じ北海道でも場所が違えば学校の様子や子ども様子も違います。とにかく元気いっぱい素直な子が八雲には多いように感じます。そんな子どもたちとめぐり逢えたことに感謝し、八雲のすばらしさを感じながらこれからも教員生活を送っていききたいと思います。

一歩一歩



長万部支会
（長万部中学校）
杉林 あゆみ

長万部中学校に赴任してからも早くも半年が過ぎました。日々成長していく子どもたちの姿に驚きや喜びの連続です。

子どもたちの、好きなことに取り組むパワーや、興味があることを吸収していく速さは、本当に素晴らしいものです。そんな子どもたちを見て、刺激を受ける毎日です。しかしながら、実際には、子どもとどう向き合えばいいのかなど、悩む場面も多くあります。そんな時、先輩の先生から「まずやってみる。失敗して学ぶこともある。」という言葉がかけられたことを思い出します。子どもと一緒に考え、悩みながら、一歩一歩成長していきたいと思います。

これからも、温かく見守ってください先生方に感謝しながら、日々勉強を重ね、がんばっていきますので、ご指導よろしく願います。

終身会員

の声

煎茶道を学んで



昭和三十三年卒 二類
青木 壽子

在職中に、五稜郭公園広場の野点の記事を目にしました。道新が、退職教員煎茶サークルの活動の様子を紹介していました。お客様を迎え、生き生きと活動している退職教員の写真が心に残りました。

この記事がきっかけとなり、退職後、煎茶道を学んでいます。煎茶道は、全国にたくさんの方流の派がありますが、私は方円流の函館支部に所属しています。

方円流は「てまえ」を手前と表記しています。茶葉によって玉露手前、煎茶手前、番茶手前、紅茶手前などがあり、また手前は、初歩から初伝、中伝、さらに奥伝と進みます。広くそしておく深いもので、私はその入り口で頑張っています。

煎茶サークルとサークルの講師の先生の社中に入り、最初の一年間は無我夢中で、特別に週三回も教えていただき、三年分の稽古をしました。今は、それ

なりの資格を取得し、手前だけでなく茶席づくりも手伝うことができるようになりました。

今年は特に忙しく、一月は新年の茶会、三月は春の茶会、八月は冷滝手前の茶席、十月は紅茶席と四回も関わりました。無事に何とか終えることができました。今は、ほっとしています。

そして、退職してから好きなことを学ぶことができる環境に感謝し、健康で頑張ることができている自分に「かんばり賞」を贈って過ごしています。

生き方を学ぶ絆



昭和三十三年卒 二類
浦田 弘

最近、原稿を書くなど少なくなりました。生来、文章書は不得手な私にとって、退職後十年間務めた町内会長も退き、ますますそんな機会が希薄になっております。

そんな中、一つだけ続いているのが七飯町郷土史研究会という同好の志でつながれた組織の一員であるということです。

郷土史研究会はさまざまな職種、経験の持ち主が寄り合い、自由闊達にものを言い、学び合う会でもあります。

会の基本理念の中に「互いに楽しみながら学び、親しむ」を深め、生き方を学ぶ」というのがあって大切に受けとめている。一つの事象を語るにもいろいろな見方、考え方がとびか、経験のちがいが目の当りにぶつかり合う。

そんな時、小説家・幸田露伴のことばを思い浮かべる。「一生瓜を作っても、馬の蹄鉄を造っても、又一生杉箸を削って暮しても差支えない。何によらず其のことが最善に到達したなら、その人も幸福であるし、又世に幾千かの貢献を残す」。

現在、会の事務局長を担っているが常に基本理念を忘れず接し、方向性を見出し出しております。

夕陽の絆とは多少異なるが、生き方を学ぶ絆も大切にしていきたいと考えている。

かつての修学旅行に想う



昭和三十三年卒 二類
木 村 禮壽郎

昭和四十年代、私がお世話になつた中学校は学年八クラス程度のマンモス校であつた。

一学級、四十人以上の在籍があり経済的な理由で修学旅行に行けない者が毎年何人かいたように記憶している。

当時、参加できなかつた者を函館に遠足のようなかたちで引率し一日を過ごすのが習わしであつた。

行程の中に港湾の中を遊覧船で周遊するコースがあり、春なのにとても寒かつたのを覚えて

いる。子供たちの表情も海面をわたる潮風を受け寒そうで寂しげに見えたのは私の考え過ぎだったのかもしれない。

デパートに行つたり、函館山にロープウェイで登つたりそれなりに楽しく工夫されていたが、連絡船に乗り、宿泊の伴う修学旅行に参加できた同級生に比べたら感じやすい年頃の彼等

にとつて思うものが随分あつたに違いない。

子育て支援や就学援助の予算措置等が世情を賑わしている。

経済的な格差が子供たちに物質的な面は勿論、心の面で辛い思いをさせたり若いときに受けた扱いが嫌な思いとして残ることだけは断じて避けたいものである。

せっかく計上された子育て支援や就学援助の予算である。

学校現場にあつては常に子供の側にたちその経済的な予算措置がより一層、有効に活用され子供の未来に大きく資するものであることを心から期待する。

.....

三年十ヶ月の重み



昭和三十三年卒 二類
熊 本 昇

「希望の管内は」「渡島です」「大変だよ、渡島は」「試験、頑張ります」「成績だけではね」「？」。昭和三十三年の今時期、教官室での就職指導面接。

「頼れる人が居れば別だが」で渡島志望を断念。反対する母親を説得して、再び教官室へ。

「四月に就職できる支庁は」「留萌・宗谷・網走・根室なら」M君との相談成立。見ず知らずの留萌行き。

現地留萌での試験、面接。「当管内には離島もあるが」「行きます」

一月、苫前町内に勤務校内定。嬉しかった。夢のようだった。

三月、居住地の砂原町沼尻から列車を乗り継ぎ十八時間。苫前町力昼へ。

小学校六学級・中学校三学級の併置校。力昼小中学校が教員生活のスタートとなつた。

児童生徒、教師集団、父母、地域社会のみんなから『教師』に育てていただいた。実に、楽しかつた。毎日が充実していた。

しかし、三年十ヶ月で渡島に転任。僅かの年月と年度途中の無責任さ。誰も責めなかつた。辛く、申し訳なさいといっぱい。

教師生活四十年の誇り高き三年十ヶ月。忘れることなど一つとして無い。

クラス会へのやさしい誘い。心は微笑み身体は踊る。夜を徹する思い出話。笑いと涙の渦。

次回への固い約束。「ありがとう」の言葉がすべてを語る。

終身会員の皆様へ

「平成二十一年度 勇退者激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

◎平成二十一年二月十三日(土) 午後五時より

◎会場 ホテル法華クラブ

◎会費 六千五百円

◎申し込み締め切り 一月十五日(金)

◎申し込み方法

同封の葉書にて

あとがき

たいへんお忙しい中ご寄稿くださいました皆様、誠にありがとうございました。

おかげ様をもちまして第九号を発行することができました。

今後とも会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。